

※評価委員会評価がs、a、b、c、dの評価のうち、b（概ね達成）以下の評価項目（小項目）に対する反映状況を掲載

公立大学法人長野県立大学

評価結果反映状況一覧  
【中期目標の期間の終了時に見込まれる業務実績報告書版】

評価項目（全体評価・大項目・小項目）		委員会評価の ↑↓	評価における主な指摘事項 *小項目順に記載	法人の業務運営等への反映状況（R4年度以降）
大項目	小項目 評価委員会の評価がb又はcであった項目			
1	10	c	<p>（学生の英語力向上） 英語力の向上の取り組みは、入学時と比較して2年次修了時の TOEIC600点以上の学生の割合の増加や平均点が約130点伸びなどの成果を上げていると認められるが、中期計画に掲げた目標値には達していないことから法人の評価より低い評価とした。 これまでの達成状況では、中期計画に掲げた目標達成は困難であると考えられることから、英語力向上に向けた抜本的な取組が必要である。</p>	<p>令和4年度からは、新しい取組として、4学期の科目において、グローバルマネジメント学部では30%、健康発達学部では20%、TOEIC試験のスコアを成績評価に反映する制度を設け、学生のTOEICに向けた学習意欲向上を図ったほか、2年次3、4学期におけるネイティブ教員と日本人教員の指導分担体制を見直し、日本人教員がTOEIC L&amp;Rの指導により専念できるような取組も始めた。 また、コロナ禍によりオンライン代替していた海外プログラムについても、令和4年度3月に健康発達学部の両学科において海外現地で実施を再開した。グローバルマネジメント学部においても、令和5年度では海外現地で実施している。</p>

3	19	b	<p>(GPAを用いた成績評価)</p> <p>複数教員が担当する「発信力ゼミ」では、GPAを用いて学習成果を可視化し、それに基づきルーブリックを構築し、担当教員間での認識共有を行っている点を評価する。GPAは学習成果の可視化を可能とすることから、より多くの科目において、担当教員間でGPAの結果の認識共有を図るなど授業改善に活用されたい。</p>	<p>令和5年度から新学務システムを導入し、GPA分布の検証を教職員が行えるようにした。</p>
5	37	c	<p>(科研費の申請率、採択)</p> <p>中期目標に定められた研究等に係る外部資金の獲得については、科学研究費補助金や受託研究等が成果をあげているが、中期計画に定められた目標値に対する実績は年々減少してきていることから法人評価より低い評価とした。</p>	<p>令和4年度より、科研費申請のプロチームによる申請書添削サービスの利用を始めており、若手や未申請者へ積極的に利用を促すなど、申請率向上に向けた新たな取組による改善を進めた。</p> <p>また、令和4年度末に教員に対する現状のアンケートを実施し、令和5年度の申請率向上を推進していく。</p>
<b>大項目</b>	<b>小項目</b> 自己点検・評価より評価を下げた項目			
4	29	↓ a	<p>(障がいを持つ学生への支援)</p> <p>障がいを持つ学生に対して、管理栄養士養成校として、全国初の対応を行った点は評価できるが、中期計画の小項目全体の内容で判断し、法人評価より低い評価とした。</p> <p>なお、こうした合理的配慮の対応や体制があることは大切なアピールポイントであるので、広く周知するとともに、障がいを持つ学生への支援をさらに進めていただきたい。</p>	<p>障がいを持つ学生に対する合理的配慮として、これまで次のとおり具体的な取組を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす用の机や実習用設備等の支援機器・施設の改修（授業参加のための整備）。</li> <li>・授業で使用する資料等の事前提供やホワイトボード等の可能範囲での撮影の許可（情報保障に関する配慮）</li> <li>・座席や時間の配慮（授業等活動における配慮）</li> <li>・試験時間の延長（試験における配慮）等</li> </ul> <p>今後も適切な修学環境の提供に努めていく。</p>